

2025年12月23日

## 『大学院課程の学内実習における心理臨床家養成についてのアンケート』 集計結果（速報版）

カリキュラム委員会

カリキュラム委員会では、公認心理師養成における「大学院カリキュラム」の今後の見直しを検討するにあたり、当学会として提言を行うための基礎資料を得ることを目的として表題のアンケートを実施した。

本アンケートは、心理臨床家としての資質を高めるうえで有効と考えられる学習方法や内容について検討するためのもので、特に今回は、大学等附属の地域向け心理相談施設での実習（以下、学内実習）において、心理臨床家の養成で長年実施されてきた、スーパービジョンや逐語録作成をはじめとする指導方法に焦点を当てたものである。

具体的には、大学院の修士課程（ただし、公認心理師・臨床心理士を養成するもの）において回答者が体験した学内実習について下記の点について回答を求めた。

- ・ 大学院修了後、心理支援・心理臨床の実践において、それらの経験がどのように役立ったか
- ・ 現在の養成課程・カリキュラムに対する意見や、今後のカリキュラムへの提案
- ・ 心理臨床家の養成にあたり必須と考えられる教育法・指導法など

なお、アンケートは、選択式の質問項目と自由記述から構成されていた。

今回の集計結果は、速報版として、選択式の回答結果のみをまとめたものである。

### A 調査の概要

#### 1. 実施日

2025年7月11日（金）～ 8月7日（木）

#### 2. 実施方法

- 1) 調査方法：無記名で、WEBでのフォームで回答を求めた。
- 2) 調査対象：日本心理臨床学会の会員
- 3) 依頼方法：日本心理臨床学会のホームページとメールニュースで回答依頼を行った。

### B 調査結果の概要

#### 1. 回答総数は、1,452件。

#### 2. 回答者の概要

- ・ 回答者の約92%は、現在心理支援や心理臨床の実践を業務としていた。主な勤務先は、教育・医療・福祉分野。
- ・ 約83%は、個人面接（カウンセリングや心理療法）を担当していた。
- ・ 約85%が、公認心理師と臨床心理士の両資格の保有者していた。
- ・ 約30%が、公認心理師や臨床心理士の養成にかかわっていた。そのうち、約22%が公認心理師・臨床心理士の両方の資格の養成に、約8%がどちらか一方の資格の養成に関わっていた。
- ・ 約13%が、学内実習機関でスーパービジョンを担当していた。
- ・ 約83%が、大学院で学内実習を経験していた。主にケース担当・逐語作成・事例検討会・スーパービジョンなどを経験していた。

### 3. 結果の概要

#### ① 学内実習の有効性に関する評価

- ・ ケース担当・逐語録作成・心理検査・個人SV・グループSVなど、ほぼ全ての実習経験が「役立った」と高く評価されている。
- ・ 「役立たなかった」との回答はごくごく少数。（最終ページ参照：少数回答の分析）
- ・ 特に「スーパービジョン(95.2%)」「ケース担当(96.6%)」は、9割以上、ほぼ全ての回答が肯定的に評価している。

#### ② 今後の養成カリキュラムに求められるもの

- ・ 「ケース担当」「逐語録作成」「スーパービジョン」などは今後も重要であると8割から9割以上が回答している。
- ・ 「あまり重要でない」「全く重要でない」との回答はほとんどなかった。

#### ③ まとめ

- ・ 実習や養成に関わる立場の人ほど「重要」「役立つ」と評価する傾向がみられるが、関わっていない人も同じ傾向で、全体としても高く評価している。
- ・ アンケート結果は一貫して、学内実習は心理臨床家の成長に極めて重要であり、技能の習得や自己省察に広く寄与していることを示している。

## C 選択項目の集計結果

### 1. 回答者の情報（あなたについてお尋ねします）

Q1	あなたは、現在、心理支援・心理臨床の実践を業務として行っていますか 【必須】	全体	件数	割合
a	行っている	1452	1329	91.5%
b	行っていない	1452	115	7.9%
c	大学院生（修士課程）として在学中	1452	8	0.6%

Q1-2	主たる活動分野を一つ教えてください 【必須】	全体	件数	割合
a	保健医療	1259	412	32.7%
b	福祉	1259	224	17.8%
c	教育	1259	414	32.9%
d	司法・犯罪	1259	24	1.9%
e	産業・労働	1259	72	5.7%

f	その他：私設心理相談機関	1259	92	7.3%
g	その他：国又は地方公共団体の心理支援施設等	1259	16	1.3%
h	その他：大学等附属の地域向け心理相談施設（学内の学生相談を除く）	1259	0	0.0%
i	その他	1259	5	0.4%
j	現在活動はしていない	1259	0	0.0%

Q3	現在、公認心理師と臨床心理士の資格を保持していますか【必須】	全体	件数	割合
a	公認心理師のみ	1452	74	5.1%
b	臨床心理士のみ	1452	111	7.6%
c	公認心理師と臨床心理士の両方	1452	1227	84.5%
d	持っていない	1452	40	2.8%

Q4	現在、心理支援・心理臨床の実践として個人面接（カウンセリングや心理療法）を担当していますか【必須】	全体	件数	割合
a	はい	1452	1208	83.2%
b	いいえ	1452	244	16.8%

Q5	現在、公認心理師や臨床心理士の養成に、大学の教員もしくは実習施設での指導者としてかかわっていますか【必須】	全体	件数	割合
a	公認心理師のみ	1452	103	7.1%
b	臨床心理士のみ	1452	17	1.2%
c	公認心理師と臨床心理士の両方	1452	320	22.0%
d	養成に関わっていない	1452	1012	69.7%

Q6	現在、学内実習施設で学生が担当するケースに対するスーパービジョンを、担当していますか 【必須】	全体	件数	割合
a	担当している	1452	187	12.9%
b	担当していない	1452	1265	87.1%

## 2. ご自身の大学院時代の学内実習体験についてお尋ねします

Q1	大学院での学内実習体験がありますか 【必須】	全体	件数	割合
a	あり	1452	1215	83.7%
b	なし	1452	237	16.3%

a選択の場合 Q2	学内実習施設での以下の実習経験はありましたか？（複数選択可）該当するものをすべてチェックして下さい。（複数選択可）また、その経験が「学び」として、現在の心理支援・心理臨床の実践にどの程度役立ったかを、チェック後追加される評価欄からお選びください。	全体	件数	割合
	ケース担当	1452	1119	77.1%
	ケースへの陪席	1452	793	54.6%
	心理検査担当	1452	663	45.7%
	逐語記録の作成	1452	1015	69.9%
	個人スーパービジョン	1452	930	64.0%
	グループスーパービジョン	1452	606	41.7%
	ケースカンファレンス・事例検討会	1452	1146	78.9%
	上記はいずれもなかった	1452	7	0.5%

Q2-1	「ケース担当」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	1119	853	76.2%
b	ある程度役立っている	1119	228	20.4%
c	どちらでもない	1119	16	1.4%
d	あまり役立っていない	1119	16	1.4%
e	まったく役立っていない	1119	6	0.5%

Q2-2	「ケースへの陪席」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	793	471	59.4%
b	ある程度役立っている	793	278	35.1%
c	どちらでもない	793	23	2.9%
d	あまり役立っていない	793	13	1.6%
e	まったく役立っていない	793	4	0.5%

Q2-3	「心理検査担当」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	663	415	62.6%
b	ある程度役立っている	663	207	31.2%
c	どちらでもない	663	24	3.6%
d	あまり役立っていない	663	13	2.0%
e	まったく役立っていない	663	4	0.6%

Q2-4	「逐語記録の作成」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	1015	530	52.2%
b	ある程度役立っている	1015	356	35.1%
c	どちらでもない	1015	75	7.4%
d	あまり役立っていない	1015	46	4.5%
e	まったく役立っていない	1015	6	0.6%

※未回答2名

Q2-5	「個人スーパービジョン」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	930	707	76.0%
b	ある程度役立っている	930	179	19.2%
c	どちらでもない	930	24	2.6%
d	あまり役立っていない	930	16	1.7%
e	まったく役立っていない	930	4	0.4%

Q2-6	「グループスーパービジョン」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	606	361	59.6%
b	ある程度役立っている	606	196	32.3%
c	どちらでもない	606	35	5.8%
d	あまり役立っていない	606	10	1.7%
e	まったく役立っていない	606	4	0.7%

Q2-7	「ケースカンファレンス・事例検討会」の実習経験について、どの程度ご自身の役に立ったか評価を選択してください	全体	件数	割合
a	非常に役立っている	1146	699	61.0%
b	ある程度役立っている	1146	351	30.6%
c	どちらでもない	1146	51	4.5%
d	あまり役立っていない	1146	34	3.0%
e	まったく役立っていない	1146	10	0.9%

※未回答1名

### 3. 今後の養成に向けたご意見をお聞かせください

Q1	以下の要素は、今後の公認心理師・臨床心理士の養成においてどの程度重要だと思いますかそれぞれの重要度を選択してください。	全体	件数	割合
<b>【ケース担当】</b>				
5	非常に重要	1452	1197	82.4%
4	重要である	1452	201	13.8%
3	どちらともいえない	1452	46	3.2%
2	あまり重要でない	1452	6	0.4%
1	全く重要でない	1452	1	0.1%
<b>【ケースへの陪席】</b>				
5	非常に重要	1452	840	57.9%
4	重要である	1452	444	30.6%

3	どちらともいえない	1452	149	10.3%
2	あまり重要でない	1452	14	1.0%
1	全く重要でない	1452	2	0.1%
<b>【心理検査担当】</b>				
5	非常に重要	1452	881	60.7%
4	重要である	1452	449	30.9%
3	どちらともいえない	1452	109	7.5%
2	あまり重要でない	1452	9	0.6%
1	全く重要でない	1452	0	0.0%
<b>【逐語記録の作成】</b>				
5	非常に重要	1452	674	46.4%
4	重要である	1452	488	33.6%
3	どちらともいえない	1452	215	14.8%
2	あまり重要でない	1452	58	4.0%
1	全く重要でない	1452	10	0.7%
<b>【個人スーパービジョン】</b>				
5	非常に重要	1452	1108	76.3%
4	重要である	1452	284	19.6%
3	どちらともいえない	1452	51	3.5%
2	あまり重要でない	1452	5	0.3%
1	全く重要でない	1452	1	0.1%

【ケースカンファレンス・事例検討会】				
5	非常に重要	1452	650	44.8%
4	重要である	1452	537	37.0%
3	どちらともいえない	1452	239	16.5%
2	あまり重要でない	1452	13	0.9%
1	全く重要でない	1452	6	0.4%

#### 4. 少数回答の分析

「ご自身の体験」で、「ケース担当」の実習経験について、「まったく役立っていない」を選択した6件の回答について、更なる分析を行った。

「今後の」公認心理師・臨床心理士の養成において「ケース担当」がどの程度重要だと思うかを尋ねた設問において、上記の6名中、2名が「非常に重要である」、4名が「重要である」と回答していた。それゆえ、回答の全件で、養成においては「ケース担当」が重要であると認識していると考えられる。